

# 重症開放骨折における 骨欠損治療戦略

—IMT( Induced Membrane Technique) を成功に導く  
RIA (Reamer Irrigator Aspirator) の役割—

演 者

森井 北斗 先生

埼玉医科大学総合医療センター 外傷センター

日 時

2026年 6月 11日(木) 12:20 - 13:20

場 所

第2会場  
大宮ソニックシティ 国際会議室

学会 HP



座 長

田口 憲士 先生

長崎大学病院 外傷センター

## ランチョンセミナー 1

# 重症開放骨折における骨欠損治療戦略 —IMT( Induced Membrane Technique) を成功に導く RIA (Reamer Irrigator Aspirator) の役割—

## 森井 北斗 先生

埼玉医科大学総合医療センター 外傷センター

重症開放骨折の治療では、感染や軟部組織損傷への対応に加え、骨欠損の有無とその程度が骨癒合、治療期間、追加手術回数、さらには機能予後を大きく左右する。近年、骨欠損再建の中心的手法として Induced Membrane Technique (IMT) が広く普及しているが、Bone transport、Vascularized bone graft などの従来の治療方法とどのように使い分けるかについては未だ議論の余地がある。

ただ現在においても骨欠損治療の柱となっているのは自家骨移植であり、特に IMT には十分量かつ良質な自家骨が必要である。Reamer Irrigator Aspirator (RIA) は、大量の自家骨を効率よく採取できるだけでなく、手技の簡便性、採骨部痛の軽減、手術侵襲の低減といった多くの利点を有す非常に有用なツールであり当院でも多くの症例に用いている。一方で継続的に使用するためにはいくつかのピットフォールも存在する。

本セミナーでは、重症開放骨折における骨欠損治療の考え方を整理し、当院での症例を紹介しながら IMT の治療成績とそれを支える RIA の実際とその有用性について講演する。

